

高校選手権優勝、日本代表選手育成経験がある

高校サッカー指導者の人間形成に関する質的研究

コーチング科学研究領域

5009A017-1 大森雄一郎

研究指導教員：堀野 博幸 准教授

I. 序論

高校生年代のサッカーの指導においてサッカーの技術、戦術的な指導だけでなく、人間性の指導が重要だと言われている。具体的な研究例として、優れた高校サッカー指導者による人間形成について述べている研究に北村ら（2005）の先行研究がある。しかし北村らの先行研究では、「支援」のカテゴリーで人間形成について触れているものの詳細な検討はされていない。この「支援」のカテゴリーで述べられている人間形成を、より詳細に検討することが本研究の目的設定につながる。

Flick（2002）、Côté et al.（1993）らの先行研究により、メンタルモデルを作成することは、優れた高校サッカー指導者が人間形成指導を行う時に、どのように指導行動を選択したかを考えることに有益である。

上記のことから本研究の目的は、高校選手権優勝、日本代表選手育成経験がある高校サッカー指導者による人間形成に焦点を当てたメンタルモデルを作成することである。

II. 方法

1. 対象者

1) 監督として指導にあたったチームを勝利に導いた実績がある（過去 10 年間で、高校選手権でチームを優勝に導いた経験がある）。

2) 日本代表選手（日本代表 A マッチ出場経験を持つ選手）を育成した経験をもつ。

この条件に当てはまる対象者は 6 名であり、どの対象者も高校サッカー指導時に当該高校の教員であった。本研究では 6 名の内、5 名からの協力が得られた。

2. データ収集

データ収集において 1 対 1 の半構造的、深層的、自由回答的インタビュー調査を 2010 年 8 月～9 月の約 2 ヶ月間で行った。約 70 分のインタビューを 5 名の対象者に対して実施した。質問項目は基幹的質問、追跡的質問、探索的質問の 3 種類の組み合わせにより構成した。

3. データ分析

質的データ分析法（Côté et al.,1993）を用いた。

4. 信頼性検証

信頼性の検証は Culver et al.(2003)を参考に研究方法の明示、研究者による点

検の 2 つの方法を用いた。

Ⅲ. 結果

対象者 5 人の分析結果から、高校選手権優勝、日本代表選手育成経験がある高校サッカー指導者の人間形成に関するメンタルモデルが構築された。このメンタルモデルは各指導者の分析結果から抽出された、指導者が選手に規律を教える他律、選手が自ら考え行動する自律、選手個々の力が発揮される個性の 3 つの要素によって構成されており、要素間の関連は図 1 に示した。

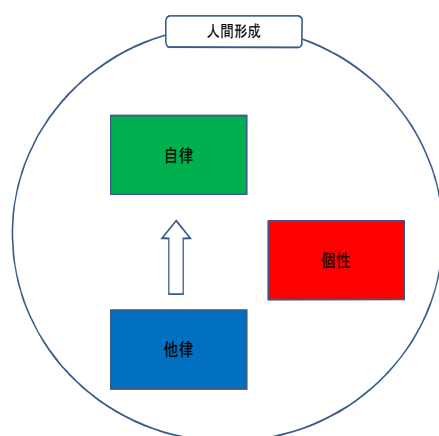


図 1 高校選手権優勝、日本代表選手育成経験がある高校サッカー指導者の人間形成に関するメンタルモデル

Ⅳ. 考察

高校選手権優勝、日本代表選手育成経験がある高校サッカー指導者による人間形成に焦点を当てたメンタルモデルを作成することで、以下のことが明らかになった。

第 1 に本研究の対象者が他律から自律へと指導順序を捉えていることが分かった。

この指導順序の目的は、他律で選手に人間として生きていくための土台を獲得させた上で、自律によって選手自身が個性を発揮していくことにある。

第 2 にメンタルモデルにおいて他律が大きく、自律が小さいという傾向が見受けられるのは、日本人としての特性が関わっているからだと考えられる。

第 3 に、オフザピッチの指導がオンザピッチにつながる考え方とオンザピッチの指導がオフザピッチにつながる考え方に分かれるのは、指導者自身が受けてきた教育に起因する可能性がある（図 2）。

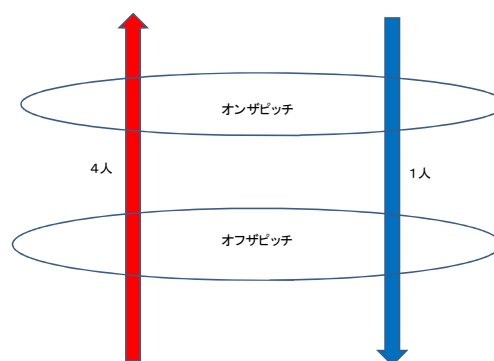


図 2 人間形成の捉え方

第 4 に本研究の対象者が非常に優れた実績を残してきたのは、サッカーと人間形成の関係を自らの中でしっかり自己形成できていることと関係している。

Ⅵ. 結論

本研究では、優れた成績を残した高校サッカー指導者人間形成について新たな考えを示すことができた。本研究が質的研究発展の一助になることを願う。